

「雄大積雲と光芒」

夏の暑い日、強い日差しで午前中から積雲が発生します。積雲はどんどん発達して、高さ数千メートルの「雄大積雲」になります。そのまま圏界面（高度 10,000m~12,000m）に達するほど成長すれば「積乱雲」となって、その真下では激しい雷雨になります。

しかし、積乱雲にまで発達しなかったものや、陽が傾いてエネルギー源を失った雲は、徐々に崩れて風に流されて散ってゆきます。その形状から「火焰状雄大積雲（かえんじょうゆうだいせきうん）」などと呼ばれます。そうした「西の空に残った雄大積雲」に夕日が隠されると、劇的な光景が見られることがあります。

雲のすき間から太陽光が漏れて、地上を照らす現象を「光芒」といいます。その形と美しさから「天使のはしご」とも呼ばれ、昔から吉兆とされてきました。光芒は通常、雲（積雲や層積雲）から、下に向かって光の帯がさします。光芒そのものは、適度にすき間のある雲塊が太陽をかくせば見られるので、それほど珍しい現象ではありません。ところが、雄大積雲のように、地平線から伸びた大きな雲塊が太陽を隠すと、上に向かって放射状に光芒が現れることがあります。



「天使のはしご」

雲のすき間から下に漏れた太陽光線が、放射状に見えます。江ノ島にて。(水彩画)

浅間高原自体も雷雲の通り道で、夏の午後にはよく激しい雷雨に襲われます。しかし、遠くの雄大積雲を横から眺められることもよくあります。夕方の西の空に、そのような雲があると、こんな

光景が見られるのです。これも「光芒」ですが、天使が雲に降りてくるはしごですね。



「夕暮れの雄大積雲と光芒」 実に神々しい光景です。北軽井沢にて。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)